

## 令和6年度 第4回 調布市地域経済対策会議要旨について

開催日：令和7年3月13日（木） 午後4時から5時30分まで

場 所：市長公室（市役所5階）

出席者：渡部完治（調布市商工会 会長）

秋沢淳雄（調布市商工会 副会長）

玉村秀樹（調布市商工会 副会長）

相田英俊（調布市商工会 商業部会長）

品川信幸（調布市商工会 工業部会長）

川又祐一（調布市商工会 建設業部会部会長）

阿部秀樹（調布市商工会 サービス業部会部会長）

大前勝巳（調布市商工会 商業部会副部会長）

山口純（調布市商工会 事務局長）

本田尚美（調布市 副市長）

宮田千華（調布市 行政経営部次長）

鈴木克昌（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興担当部長）

深沢典充（調布市 生活文化スポーツ部 次長）

伊東良之（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課長）

花岡 裕（調布市 生活文化スポーツ部 産業労働支援センター担当課長）

栗野和也（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課長補佐）

荻野大治（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課商業観光係長）

足立真宏（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課産業労働支援係長）

西郷晴久（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課主任）

野口大輔（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課主任）

佐藤恵太（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課主事）

※山岸商工会アドバイザー，多摩信用金庫は欠席

### 1. 開会

#### 【商工会会長】

- ・市内事業者の状況は、依然として物価の高騰や人材不足といった課題が経営に大きな影響を及ぼしており、日々その厳しさを痛感している。
- ・1月の議会において、物価高騰支援事業が承認され、市内企業にとって大きな対策となる。商工会としてもしっかりと活用し、地域の事業継承と発展に寄与していきたい。

### 2. 事業者支援策等の取組状況について

#### ○調布市中小企業事業資金融資あっせん制度（コロナ・物価高騰口）の取組状況

#### 【調布市】

- ・令和6年度の申請件数については、昨年度と似たような推移になっている。1月の申請件数は減少したが、最新の2月の情報では、申請件数が33件、そのうちコロナ物価高騰口

は10件と、依然として一定の需要がある。

### ○新商品開発等補助事業の取組状況

#### 【調布市商工会】

- ・令和6年度から新たに実施している事業。ふるさと納税の返礼品の開発及び提供の際に必要な包装資材やパッケージの制作費用の一部（3分の2）について、40万円を上限として補助を行う。10月から募集を開始し、11件の申請があった。

### ○市内消費喚起事業（バイ調布チケット事業）の取組状況

#### 【調布市商工会】

- ・事業期間を11月15日から12月15日まで、対象エリアを仙川駅周辺、緑ヶ丘、若葉町、入間町の店舗及び事業所として実施した。52店舗が参加し、総額1500万円、冊数にして3,000冊の商品券を発行した。約1週間で完売し、換金率が99.42%であったことから、大変好評であったと言える。飲食店と小売店での利用が多かった。
- ・令和7年度は、調布駅周辺で開催予定であり、参加店舗が大幅に増えることが見込まれるため、一冊当たりの販売価格を上げ、発行冊数を増やすなど、方法を検討していく必要がある。

## 3. 今後の事業者支援の取組について

### ○令和7年度の事業者支援策に係る当初予算案について

#### 【調布市】

- ・創業チャレンジ支援事業については、令和6年度は月上限額5万円で12か月分、4団体を対象とし、計240万円の予算となっていた。昨今の賃借料の高騰や、申請件数を鑑みて、令和7年度は月上限額を7万5千円に上げ、対象団体も6団体に増やし、計540万円を計上。
- ・中小企業事業資金融資あっせん制度については、保証料の利用実績を勘案し、令和6年度から300万円減額の8600万円を計上。
- ・商店街街路灯等維持費助成事業については、令和6年度と同額の346万円を計上。
- ・商店街チャレンジ戦略支援事業については、各商店会からの要望に基づき、令和6年度から693万円減の2414万円を計上。
- ・政策課題対応型商店街事業費補助金については、令和6年度は商店会からの要望がなかったが、令和7年度は2商店会から要望があったため、56万円を計上。
- ・地域産業振興事業については、関係団体からの要望に基づき、対象事業が増えたことにより、令和6年度から33万円増の123万円を計上。
- ・公衆浴場施設整備等事業については、施設の老朽化や物価高騰の影響で経営が厳しい現状を踏まえ、令和7年度は、施設整備に係る補助上限額を40万円から60万円に増額し、計243万円の計上。
- ・調布市商工会補助金については、商工会からの要望に基づき、令和6年度から15万円増の6415万円を計上。

- ・人手不足や人材の確保が大きな課題となっている中で、市内の事業所で働く気運を高める取り組みの一環として、市報での市内事業所の紹介を検討している。

## ○人材確保推進事業の取組状況について

### 【調布市商工会】

・令和7年度からの新規事業として、人材確保推進事業を実施する。東京都商工会連合会が実施する多摩地域人材ダイバーシティ・DX・GX推進ネットワーク事業を周知するもの。製造業における人材不足を解決するため、ニート等の若者、シングルマザー等の女性、高齢者など、潜在的な人材を掘り起こし、企業とのマッチングにつなげていく。商工会本部の採用コンサルタントがサポートし、紹介予定派遣制度などを活用した採用支援と多様な働き方支援を行う。最初の6か月間の給与を連合会が負担するなど、手厚い制度となっている。調布市内では、現状2社のみ登録があり、今後の活用に向けた周知に努めていく。

## 4. 市内事業者の現状について

### 【商工会商業部会】

- ・2月8日、9日に「てつみち」で調布青空マーケットを実施した。仙川、深大寺、西調布など、普段、調布駅前では出店しないお店も参加した。8日は調布銀座雪まつりが開催されたことも相まってにぎわいを見せた。
- ・ふるさと納税のPRについては、オンラインショップページやチラシを作成したので、それらを活用しながら、参加店舗とも協力し、今後の周知に努めていく。
- ・商店街で実施されるイベントが減っているため、商店会長役員連絡会やエリアの交流会等で、事業の継続や支援について検討していく。

### 【商工会工業部会】

- ・原材料費や人件費、輸送費、工具類の費用などの高騰により、苦しい状況が続いている。
- ・人材確保に苦慮しており、賃金を少しずつでも上げていきたいと考えている。また、職場環境を整えることが重要と認識しているが、資金面的に厳しい状況となっている。
- ・2月には、ビジネスマッチング商談会を実施した。の70社が参加し、盛況だった。
- ・ものづくり製品化事業については、新製品等開発の場合、対象経費の2分の1の範囲で上限100万円を補助する。令和6年度に採択された企業のアイデアの中には、ふるさと納税返礼品にもなりそうな商品もあった。

### 【商工会建設業部会】

- ・物価高騰や人材不足などの問題により、苦しい状況は変わらない。特に人件費については、週休2日制をとっている企業が多いことも人件費の高騰につながっていると考えている。苦しい状況であっても、人材確保のためには賃上げをせざるを得ない状況。これらの費用の価格転嫁ができていないなどの要因もあって、利益率が下がってきているという話をよく聞く。

- ・大勢の方に参加していただけるよう広く声をかけ、2月末に情報交換会を実施した。これを機につながりを増やして、部会が一体となって課題に取り組んでいけるようにしたいと考えている。

### 【商工会サービス業部会】

- ・2月7日に第2回異業種交流会と研修会を実施し、45人ほどの参加があった。10月に行った第1回と重なる参加者が少なく、新たに参加した方が多かった。
- ・毎年発刊している「ちょうふ de サービス」について、今年は約210社を掲載した。ホームページにも掲載せているので、ぜひ活用してほしい。
- ・会員の状況としては、物価や人件費の高騰により、資金繰りに苦慮している方が多い。下請法が改正になったこともあり、今後はさらに価格転嫁できるかどうかのポイントになってくる。また、事業継承や雇用についての相談も多い。

### 【商工会 秋沢副会長】

- ・本会議が始まった当時は、コロナ対策や事業者への補助金、消費喚起などが課題であったが、現在は物価高騰や人材不足、賃上げ、事業継承などが課題となっており、この5年で明らかに商工業を取り巻く環境は変わってきている。今のうちから5年、10年先のことを考えていかなければならない。その中で、新たに「調布市産業振興ビジョン」が策定された。商工会としてもこのビジョンを基に、商工業をどう盛り上げていくか、どのようににぎわいを創出していくかを課題として取り組んでいきたい。
- ・様々な団体や会議に理事や役員として参加する中で、常に「商工業にどう還元できるか」「何か連携できないか」を考えている。例えば、調布市民駅伝でのスポーツ協会と商工会の連携した取組ができれば多くの人流を作り出すことができると思う。一つの団体や事業で完結させずに、横の連携を深め、結び付けていけるようなきっかけ作りをしていきたい。
- ・昨今取り上げられている「米」の問題については、国の備蓄米が放出されるとのことだが、価格が下がるのか、また、スーパー等の市場に適切に供給されるのかを危惧している。

### 【商工会 玉村副会長】

- ・昨年度に比べると価格転嫁がしやすい環境になってきていると感じる。一方で、設備などに対する投資は、一概には言えないが、数年前から大きく金額が上がっているものもあり、厳しい状況だと感じている。
- ・賃上げについては、必要なことだと考える。大企業に比べれば難しいことであり、経営者側の気持ちの部分があるが、賃上げにより、従業員にその思いが伝わり、厳しい中でも頑張ろうという気概につながるのではないかと思う。
- ・経営や採用に関するセミナーは、非常に良いと感じる。例えば、成功事例のパンフレットやセミナーなどがあれば、悩んでいる方や事業所にとっては大きな後押しになるのではないかと思う。建設業でも女性が活躍している事例もある。そういった事例も拾い上げていけると良い。

### 【調布市商工会商業部会副会長】

- ・調布駅前整備が令和8年3月に完了予定で、調布駅前商店街の中では、その整備された駅前がどのように管理され、どのように活用されるのか、話題に上がっている。今後、駅前広場の利活用について検討を進める際は、ぜひ商店街もその検討の場に参加させていただきたい。
- ・調布駅前商店街は、中心市街地の活性化の大きな核となる組織であり、今後さらにレベルアップしていかなければならない。メンバーには、地区協議会の会長や消防団分団長、PTA会長など様々な人がいて、大きなポテンシャルを持っている。そのような組織として、市や商工会とともに駅前の活性化を進めていきたい。

### 【市内金融機関】※欠席のため、調布市による代読

- ・たましん中小企業景況調査の2024年の10月から12月期の結果について、今期の全業種業況DIは前期よりも1ポイント下降の2となり、業種別の業況DIは建設業が7ポイント上昇の18と上昇幅が大きかった。一方で製造業は7ポイント下降のマイナス5と、2023年3月期以来のマイナス圏となった。規模別の業況DIは中規模企業が12、小規模企業がマイナス6となった。来期の全業種業況DIは今期より2ポイント上昇の4となる見込み。
- ・株式会社東京商工リサーチによると、2024年の都内の倒産件数は、3年連続増の1782件、前年比11.58%増となっており、過去10年で2番目に多い件数となった。零細企業が大半を占め、資材費などの高騰が影響していると見込まれている。内訳については、飲食や観光などのサービス業他が最多、次いで、卸売業、情報通信業、建設業となっている。このことについては多摩地区においても同様のことが言える。金利上昇の影響も否めなく、企業ごとの注視が必須となる。
- ・2024年は住宅ローン利用者が非常に多く見受けられたが、最近では減少傾向となっている。要因としては、追加利上げに対して消費者が抵抗感を示しているように見受けられる。現状、追加利上げの様子を伺っているように感じる。その他事業性融資に影響する長期プライムレートもここ半年で上昇している。事業所の課題は依然として原材料費高が挙げられ、価格転嫁ができていない事業者が多く見られる。

## 5. 調布市産業振興ビジョン策定に向けた取組について

### 【調布市】

- ・パブリック・コメント手続の意見の提出者は2人、計4件の意見があった。一つ目の意見としては、市の政策決定プロセスの中にタバコ産業を含めないことを要望するもの。市としては、引き続き調布市の受動喫煙防止条例はもとより、健康増進法や東京都の受動喫煙防止条例についての情報共有や意識啓発を図ることで、受動喫煙防止の重要性への理解を深めながら、地域の魅力向上と街のにぎわいの創出等を図っていくと回答予定。

二つ目は、市内商店会に関わる市の関わり方に関する意見となっており、市としては、多くの人が商店街に魅力を感じ、誰もが安心して日常的に訪れることができる空間となるよう、引き続き商店会が実施するイベント等について適切な助言等を行っていくと回答予定。

三つ目は、地域事業者の健康に関する支援の意見となっており、市としては、引き続き関係機関と連携しながら地域事業者の健康増進を図っていくと回答予定。

四つ目は、これからの市の産業振興のためには、商店街の伴走機関が必要であるという意見。市としては、今後も各商店会との対話を重ね、商店会数の減少に歯止めをかけるため、組織力強化に向けた商店街のさらなる改革改善への働きかけ等の取組を通じて、地域の魅力向上や街のにぎわい創出、地域経済力の向上に向けた商工会各部会や商店会活動を支援していくと回答予定。

- ・ビジョン本編の内容については、第4回策定検討委員会等を通じて変更した点があるが、考え方や方針が変わるものではない。最終的な調整を行い、第5回策定検討委員会に臨む予定。
- ・概要版については、本編に記載している第1章と第5章の内容を編集し、簡潔に読みやすくするため、結論部分のみを端的に掲載する予定。

## ○返礼品付きふるさと納税の現況について

### 【調布市】

- ・市は、ふるさと納税の返礼を通じて、市や市内事業者の魅力を広く発信することを目的として、令和4年12月から、寄附者への返礼の提供を行っている。令和6年7月からは、掲載するポータルサイトに「楽天ふるさと納税」と「ふるなび」を追加したことにより、情報発信としての充実を図った。
- ・商工会が実施する、新商品開発等補助制度と連携し、新たな返礼品登録につなげた。
- ・年末にかけて寄付件数が増加する傾向があるが、令和6年度は前年同期比で、寄附件数が約3.2倍、寄附金額が約3.4倍に増えている。今後は、調布市に足を運んでもらえるよう、体験型の返礼を充実させたい。
- ・令和7年度は、姉妹都市の長野県木島平村の盟約40周年の記念の年になるので、コラボした返礼品を企画している。